

2019年4月22日

課題名：直接作用型抗ウイルス薬による C 型肝炎治療後の
肝癌発症リスク因子の検討

◆研究の目的と概要◆

当院では、C型肝炎治療後にウイルスが陰性化したにも関わらず、肝癌を発症された方についてそのリスク要因を調べることによって、今後のよりよい診療を行うことを目的としています。

◆対象となる患者さん◆

2014年11月から、2018年3月までの間に、C型肝炎に対して直接作用型抗ウイルス薬の投与を開始された方、及び2002年3月から2015年1月までにC型肝炎に対してインターフェロンを投与された方。

◆研究に使用される情報・試料◆

血液検査（治療開始時AST、ALT、AFP、血小板数、ALP、 γ -GT、腹部超音波検査所見、年齢、性別、肝癌治療歴、インターフェロン治療歴、抗ウイルス剤に対する耐性変異、合併疾患（糖尿病）の有無、治療薬の種類、アルコール摂取歴、肝癌診断日など

◆研究方法◆

本研究は過去の診療録の情報を使用します。

-
- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
 - * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

消化器内科 研究責任者 萱原 隆久

E-mail : kenkyu★kchnet.or.jp

(★を@に変換して使用してください)

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって「社会的に重要性が高い研究である」等の特段の理由が認められ、実施についての承認が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明